

進捗状況の概要

平成 27 年度は、4 月に開催された創価大学 FD 委員会の構成員である各学部長に対し、本年度事業計画内容の周知を行った。5 月には文学部と看護学部 AP 推進チームを結成し、年間を通して、定期的な各学部との打合せや情報共有を進めた。

7 月には NPO 法人日本アクションラーニング協会より、認定 AL コーチを講師に迎え、AL マスターへの研修を実施した。文学部、看護学部、経済学部教員 10 名に対して、アクションラーニングの実践手法である“質問会議”を体験する機会を提供し、教員間での問題共有や授業改善手法の情報交換を行い、学生により良い授業を提供することができるようになった。9 月には、先導学部の経営学部に加え、文学部と看護学部の教員も交え、AL 手法の導入を意識した授業設計研修（3 月も含め、年 2 回）を実施した。これにより、教員のシラバス改善が進み、より望ましい AL 導入が可能となり、授業改善が進んだ。同じく、9 月には、前年度教員研修の参加者を対象にフォローアップ研修を行い、自身の取組の振り返りの機会とした。また、ピアサポート学生研修も実施し、ピアサポーター（シニア SA）としての素養を身につける学生を養成し、SA として採用した。さらに、シニア SA 養成を進めるために、スマート・リーダーシップ論 I～III（各 2 単位）の開設準備を進め、次年度より開講することになった。

11 月には外部講師（愛媛大学・小林直人学長特別補佐、教育・学生支援機構副機構長、教育企画室長）を招き、AP 推進本部主催のセミナーを開き、本事業の意義と推進課題に対する理解を深めた。

12 月から 1 月にかけて、卒業生調査と就職先企業への聞き取り調査を実施し、企業側が求めるニーズと、本学卒業生が備えている特質との関連性を検討した。次年度も調査を行うことで、教育プログラム改善のための情報収集を進めることにした。

2 月には AP 事業年次報告会を開催し、学内のみならず、本学の取組を広く学外にも広報することができ、本事業の意義と目標について、他大学への波及効果や教職員・学生間の共通理解を深めることができた。

また、同月、外部評価委員会を開催し、事業の進捗状況について審議いただき、助言を賜った。外部評価委員会での指摘を踏まえ、今年度の取組をまとめた実績報告書を作成した。

先導の経営学部においては、アセスメント科目のアセスメントを試行し、文学部・看護学部においては、次年度からのアセスメント科目を決定し、学修成果の可視化への本格的な取組の土台を構築する体制が整ってきた。また、経営学部のアセスメント科目における 3 種類のルーブリック試行により、経営学部の学生たちの汎用的能力の水準が明らかとなった。また、アンケート調査などにより、ハイパーフォーマー指標の妥当性・信頼性を確認することができた。

年間を通して、AL 手法を新たに導入する授業、あるいは AL 科目の質を向上させる授業を募り、AP 推進本部を中心に導入支援を行った。前期は経営学部の 2 科目について SA を配置した。また、後期は、今年度取組学部である文学部、看護学部も含めた 4 科目（経営学部 2 科目、文学部 1 科目、看護学部 1 科目）について、SA を配置した。

また、相互評価に基づく自己成長点検の結果をデータベースに登録することで、学生は次年度以降、いつでも自身の成長を今期の到達状況と比較検討できるようになった。

その他、AP コーディネーターによる、地域ボランティアの情報提供など学生への支援を開始した。また、本学と八王子市の包括協定により、地域の課題や学生ボランティア情報等の入手が容易になり、学生が社会の中で学ぶ機会の拡充が進んだ。